

平成14年度全国高校総合体育大会第55回全国高等学校バスケットボール選手権大会

平成14年 8月4日 (日)

会場 日立市市民運動公園中央体育館

【男子の部】 第3日目 Aコート 第4試合

チームA 県立能代工業 秋田	87	{	13 1Q 12 22 2Q 13 29 3Q 15 23 4Q 16 OT	}	56	チームB 県立小林 宮崎
------------------------------------	----	---	--	---	----	----------------------------------

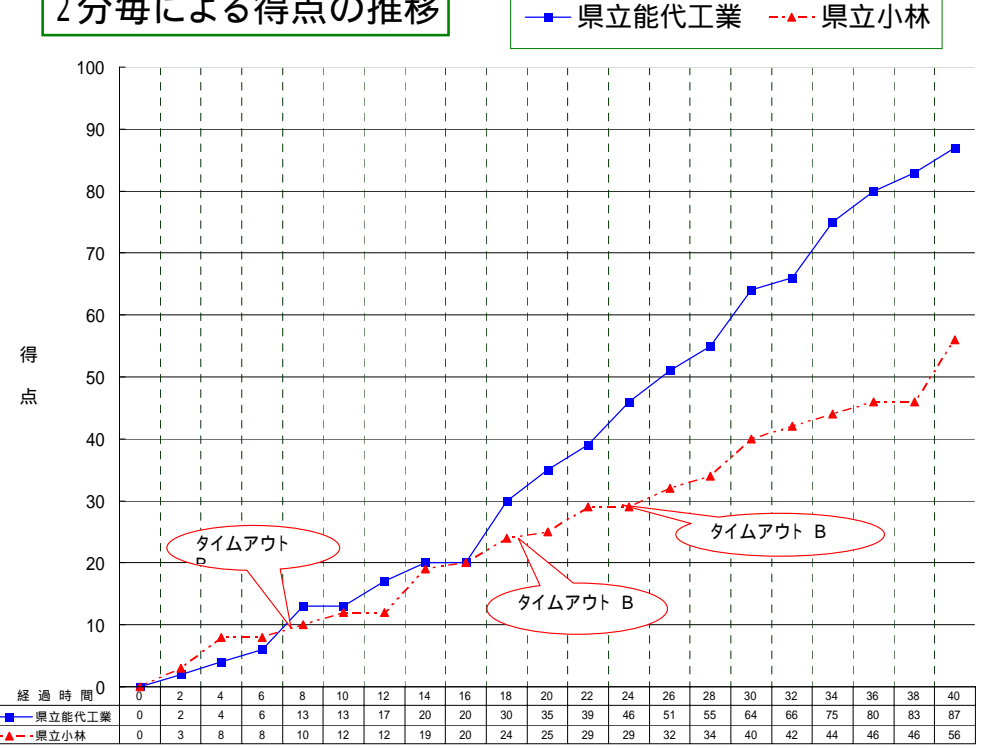
県立能代工業

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	黒政 成広	8	0	2	3	5	2	2	2	1	2	4	4	2	0	35
5	高久 順	15	0	0	4	9	7	10	3	3	6	2	2	2	4	36
6	吉田 政徳	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
7	内海 慎吾	40	3	9	13	19	5	6	2	1	10	0	2	2	0	36
8	富田 敏幸	13	3	7	2	10	0	0	0	0	4	2	0	3	0	36
9	高橋 優	2	0	6	1	5	0	0	1	2	7	2	1	1	0	36
10	梅津 敬介	2	0	0	0	1	2	2	1	0	0	0	0	0	0	3
11	土崎 貴宏	5	0	0	1	1	3	4	0	1	1	0	0	0	0	5
12	柴田 博満	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
13	宮城 徹	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3
14	梁川 禎浩	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	2
15	二田 洋志	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
コーチ	加藤 三彦								0							
		87	6	24	25	53	19	24	12	9	30	12	10	11	4	200
		確率	25.0%	47.2%	79.2%				計	39						

県立小林

番号	氏名	得点	3P		2P		1P		反則	リバウンド		ターンオーバー	スチール	アシスト	ブロックショット	出場時間 単位:分
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF					
4	中村 充希															DNP
5	楠本 祐介	12	2	3	3	10	0	0	1	1	2	5	1	2	0	40
6	山下 貴弘	5	0	0	2	6	1	2	5	0	1	0	2	0	0	17
7	吉田 周平	9	0	4	3	7	3	4	2	2	6	2	0	2	2	40
8	綾部 有	8	2	8	1	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	16
9	猪崎 大介	5	0	0	2	15	1	1	5	2	1	2	0	0	0	26
10	小松 瑞樹	0	0	0	0	4	0	0	3	0	2	2	0	1	0	23
11	小林慎太郎	7	1	4	2	6	0	0	5	0	3	1	0	3	2	27
12	飯田 拓磨															DNP
13	淵上 悠	3	0	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2
14	原田 修太	7	0	0	3	6	1	1	2	2	1	1	1	0	0	9
15	倉津 勇也															DNP
コーチ	森 億								0							
		56	5	19	17	56	7	10	25	7	16	14	4	8	4	200
		確率	26.3%	30.4%	70.0%				計	23						

2分毎による得点の推移



戦評

能代エブレスからの2-1-2ゾーン。小林マンツーマンでゲームスタート。小林は出だしから能代工センター#5高久を徹底的にマークし、思うようなプレーをさせない。小林の献身的なヘルプディフェンスや体を張ったリバウンドに能代工も得意のハイスコアゲームにもって行けず13-12と小林ペースで第1P終了。第2Pも同様の展開で、見た目には互角であったが、徐々に決定力の差が出始める。ディフェンスでかなりの体力を使ってしまい、シュートの決定率が落ち始めた小林に対して、能代工は#7内海の冷静なプレーが光り、じわじわと点差がつき始め、35-25と能代が10点差をつけたところでハーフタイム。第3Pになると能代工のディフェンスのプレッシャーと絶妙の駆け引きに、小林はターンオーバーを連続してしまう。能代工は得意の速い展開から次々とゴールを決め、一気に試合を決定づける。小林も最後まであきらめず、どこまでもボールを追いかける素晴らしい気迫で食らいついて行くが、差を詰めるまでに至らず。最終的には87-56で能代工がベスト8に名乗りをあげた。

主審 藤本 洋

副審 岩尾 圭治

記入者 中村 宏